

行程

見直し概要

包装検査

規程の素材か、検査の荷役に耐えられるかを確認

- 素材を限定しない**新規格を制定**
- 流通合理化につながる**フレコンの推奨規格**を制定

量目（重さ）検査

正味重量や皆掛重量を計量・証明

- 農産物検査証明における**皆掛（みなかけ）重量の記載を廃止**
- **「余マスの手引き」**を作成

品位検査

一定のサンプルを採取して被害粒の混入程度等を目視で確認し、1等・2等といった等級を格付

- 国際的な考え方に基づき**サンプリング方法を簡素化**
- 現行の規格とは別に**機械鑑定を前提とした規格を制定**。等級格付ではなく、機械の測定値を検査証明に記載

銘柄検査

都道府県毎に指定された産地品種銘柄であるかどうかを目視で鑑定

- 現在の**目視鑑定から書類審査に見直し**
- 都道府県毎に指定する「産地品種銘柄」に加え、**全国一本で品種を指定する「品種銘柄」を設定**

検査証明発行

包装に印刷されている検査証明欄に等級印等を押印したり、紙で証明書を発行します

- 一定条件の下、**あらかじめ等級等を包装等に記載可能**。
- 等級など検査情報等を、**QRコードなどの照会コードにより表示可能**
- 検査証明書をメール等の電子媒体で送付することが可能

検査以外の見直し

- **農産物検査を要件とする補助金・食品表示制度を見直し**
- データ駆動型の米流通を実現させる**「スマート・オコメ・チェーン」**の検討を開始

## 《 農産物検査の見直し》

農産物流通等の現状や消費者ニーズの変化に即した合理的なものとなるよう検討・見直し

(Before)

### 熟練を要する目視を中心とした検査

- ・目視検査による限界や地域間、検査員間のバラツキ
- ・多様化する流通、実需者・消費者ニーズへの対応の遅れ
- ・人口減少下での農業者・検査現場の負担の増大

#### ○ 目視検査による限界や地域間・検査員間のバラツキ

目視鑑定だと、どうしても地域や検査員によるバラツキがある。

品種も増えて品質が見分けにくい

未熟粒の混入率など、精緻に品質を示すことが難しい

#### ○ 多様化する流通やニーズへの対応の遅れ

ピラフに適したコメがほしい

健康に良いコメがほしい

変化し続けるニーズ・市況

等級だけでは参考にならない

対応できない検査

#### ○ 農業者・検査現場の負担の増大

直接販売でも産地・品種を米袋に書くためには検査が必要

検査への負担が重く、検査方法を合理化すべく



(After)

### 流通・販売・消費の多様化に対応する機械検査

- ・機械測定の「数値」で米の特徴を精緻に示すバラツキの少ない検査
- ・生産から流通までのデータを活用する「スマート・オコメ・チェーン」を構築
- ・国際的な考えに基づく検査手法の簡素化・合理化、
- ・検査を要件とする補助金・食品表示制度の見直し

サンプリングの簡素化	検査できる品種の拡大	多様な包装の活用	QRコード等による検査証明
機械による検査(測定値で証明)	量目検査の簡素化	検査を要件とする食品表示、補助金の見直し	

消費者ニーズや流通の実態に対応した農産物検査の合理化・簡素化

生産から消費に至るまでの情報を連携・活用する「スマート・オコメ・チェーン」の構築

- ・米の栽培や販売方法等に関して農業者に多様な選択肢が提供
- ・農産物検査の合理化により農業者や現場の負担が軽減

農業者の所得向上・米関連事業の発展

欲しかった特徴の米が購入できた

# スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムについて

- 農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会の結論を踏まえ、令和3年6月に「スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム」を設立。8月に設立大会で広く周知するとともに会員を募集。現在、生産者、流通事業者、実需者、企業、消費者団体等、145会員が参加（1月12日現在）

ワーキンググループ

- コンソーシアムには、会員からの提案により「標準化WG」、「輸出WG」が設置。令和5年度産米からの活用を目標として、各種情報の標準化やJAS規格の検討を推進。

## 趣旨

生産から消費に至るまでの情報を連携し、生産の高度化や販売における付加価値向上、流通最適化等による農業者や米関連事業者の所得向上を可能とする基盤をコメの分野で構築し、これを活用した民間主導でのJAS規格制定を進める。

## 活動内容

国際標準化を視野に入れた海外調査、国際ワークショップの開催、現場検証を通じたスマート・オコメ・チェーンの検討  
スマート・オコメ・チェーンを活用したJAS規格素案の策定とその現場実証、JAS規格原案の内容の検討などを通じた、民間主導によるJAS規格制定の申出の実現に向けた関係者の共通認識の醸成及び支援

## 活動経緯・予定

- 令和3年5月 農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会とりまとめ  
(結論③：「スマートフードチェーンとこれを活用したJAS規格の制定」)
- 6月 「スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム」設立
- 8月 スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム設立大会（WEB：延べ830名）
- 9月 役員会・幹事会（会員承認、活動方針等）
- 10月 役員会・幹事会（輸出WG、標準化WG設置承認、追加会員承認）
- 10月 講演会①
- 11月 講演会②
- 令和4年2月 講演会③  
※ 上記の他、各種調査、会員インタビュー等を随時実施
- 令和4年度 JAS規格素案の作成、現場実証（予定）
- 令和5年度 令和5年産米から活用（目標）

## 体制

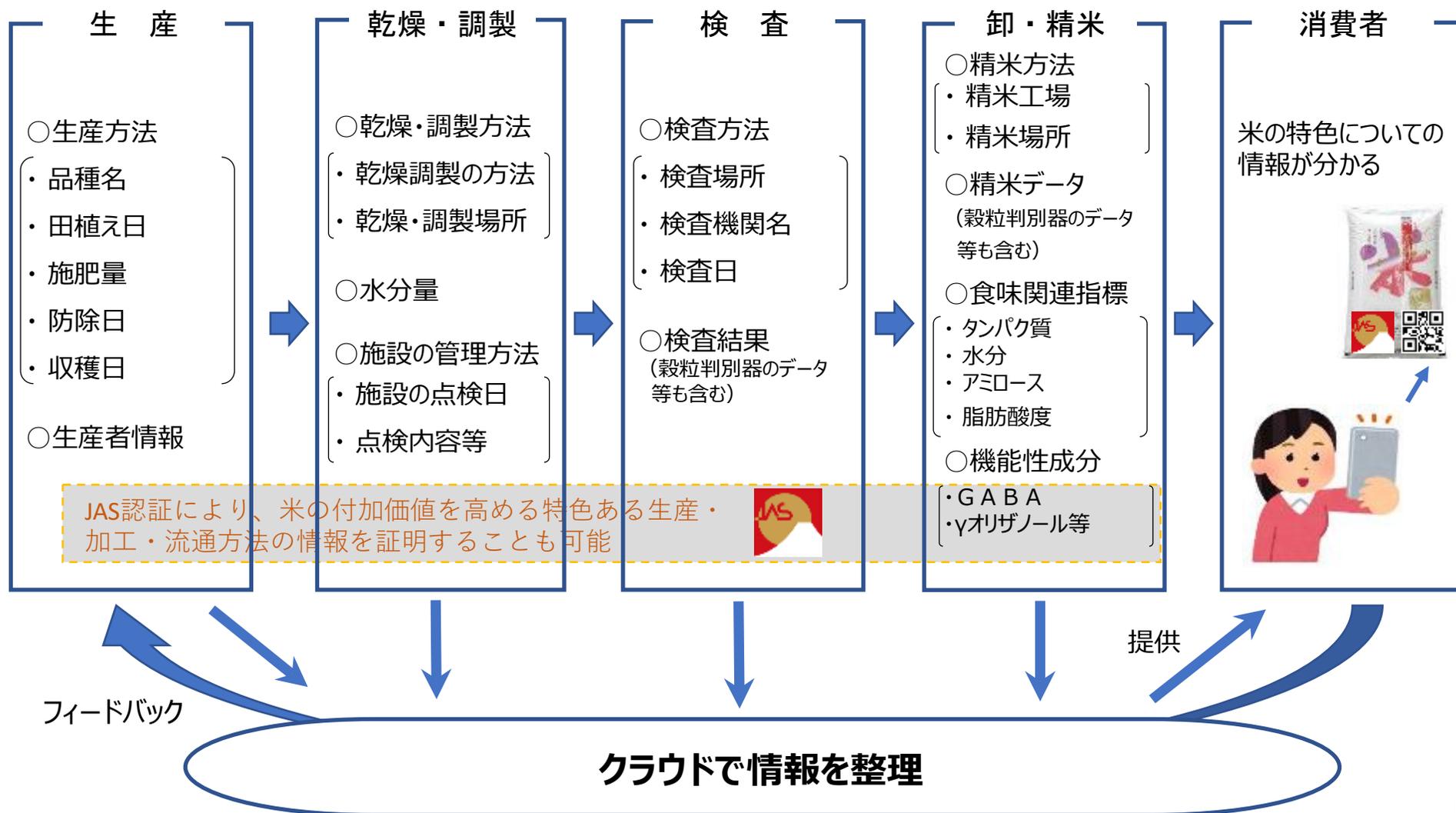
- (会長)  
中嶋 康博 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
- (副会長)  
飯塚 悦功 東京大学名誉教授、公益財団法人日本適合性認定協会 理事長  
亀岡 孝治 三重大学名誉教授、一般社団法人ALFAE 代表理事  
木村 良 全国米穀販売事業共済協同組合 理事長  
金森 正幸 全国農業協同組合連合会 米穀生産集荷対策部長  
(幹事)  
岩井 健次 株式会社イワイ 代表取締役  
梅本 典夫 全国主食集荷協同組合連合会 会長  
大坪 研一 新潟薬科大学 応用生命科学部応用生命科学科 特任教授  
金子 真人 株式会社金子商店 代表取締役社長  
説田 智三 日本生活協同組合連合会 農畜産部特別商品グループ 米穀担当  
千田 法久 千田みずほ株式会社 代表取締役社長  
夏目 智子 特定非営利活動法人ふぁみりあネット 理事長  
藤代 尚武 正林国際特許商標事務所 技術標準化事業部長  
佛田 利弘 株式会社ぶった農産 代表取締役  
古谷 正三郎 全国稲作経営者会議 会長  
細田 浩之 一般社団法人全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会専務理事  
山本 貴暁 わらべや日洋食品株式会社 購買部次長
- 会員 145企業・団体等（令和4年1月12日現在）

(敬称略)

事務局 農林水産省農産局穀物課米麦流通加工対策室  
(共同事務局：公益財団法人流通経済研究所農業・環境・地域部門)

# 生産から消費に至るまでの情報の連携と活用のイメージ

スマートフードチェーンは、国産品の国内外への供給拡大や農業者の所得向上につながるものとして期待。スマートフードチェーンを活かし、特色ある生産・加工・流通方法の情報をJASで証明することも考えられる。

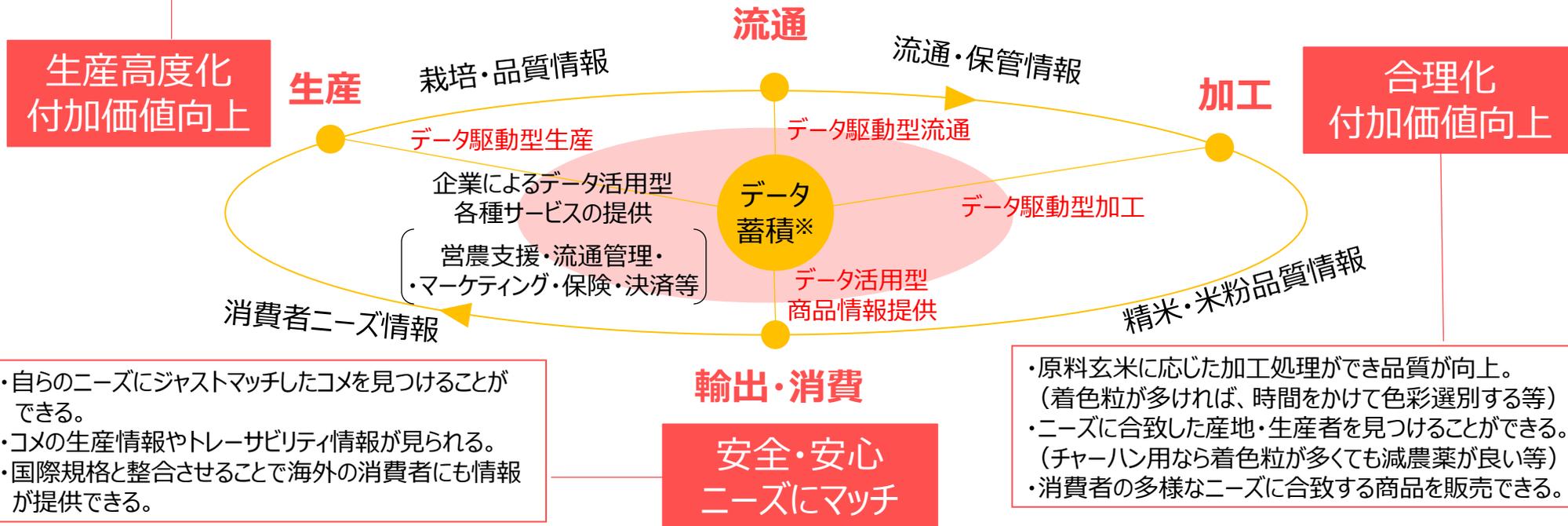


# スマート・オコメ・チェーンで実現するデータ駆動型の米生産・流通・消費（イメージ）

- スマート・オコメ・チェーンの実現により、データ駆動型の生産・流通・加工が可能となり、生産・流通・加工の大幅な高度化・合理化が期待。
- 消費者には、産地・品種・産年のみに留まらず、生産者の創意工夫や米の食味に関する情報、トレーサビリティに関する情報等、米に関連する多様な情報を提供することが可能となる。また、消費者の評価を生産者等にフィードバックすることにより消費者ニーズに応じた米づくり・営農改善が促進されることが期待。

・コメの消費者・実需者の評価がフィードバックされ、次年度の営農を改善。  
 ・ビックデータの活用で全国のコメの品質傾向がわかる。  
 ・米の品質・栽培上の工夫がデータで実需者に提供でき、最適な取引先を見つけることができる。

・流過程がトレースでき安全・安心が確保できる。  
 ・コメの品質に応じて最適な実需者に流通できる。  
 ・空トラックの活用や共同配送等、流通合理化につながる。  
 ・流通管理の情報（保管場所・温度等）がわかる。



・自らのニーズにジャストマッチしたコメを見つけることができる。  
 ・コメの生産情報やトレーサビリティ情報が見られる。  
 ・国際規格と整合させることで海外の消費者にも情報が提供できる。

・原料玄米に応じた加工処理ができ品質が向上。（着色粒が多ければ、時間をかけて色彩選別する等）  
 ・ニーズに合致した産地・生産者を見つけることができる。（チャーハン用なら着色粒が多くても減農薬が良い等）  
 ・消費者の多様なニーズに合致する商品を販売できる。

※ 提供者から承諾された場合にデータを蓄積し、個人情報には含まないよう留意。